

## リーベル通信



発行責任者：NPO 法人八女地区障害者相談支援センターリーベル  
 住所：八女市本町 17-2 電話：0943-22-2610 Fax：22-2664  
 Email： liber-yame@marble.ocn.ne.jp



## つなげよう 親と親の思い！！

## ～ 障害児保護者連携協議会設立研修会を開催しました～

12月13日（土）、八女市教育委員会との共催で八女地区障害児保護者連携協議会設立研修会を開催しました。

今回は2人の方をお招きし、「学校から見えるもの」というテーマで鶴欣二先生（上妻小学校教頭）に、「親の思い、親の会のかたち」をテーマに松尾博子さん（gocochi 代表）に講演をお願いしました。

鶴先生には、各教師や周りの子どもたちに「特別支援学級」に対する意識についてアンケート調査をされたこと、発達障害のある子どもは、教師に理解を求めることの難しさはあるが、保護者の方が教師と話せる時間を増やすことの大切さ、また教師同士が横の連携を取り、手をつなぐことが子どもにとって最良の支援ができるなど、具体的にお話をいただきました。



鶴先生のお話を聞いていると、あったかい気持ちになりました。



親の会では、食べたり話したり、家族でイベントを楽しんでま～す。



親の会って、やり方次第で楽しめるんだな～。

松尾さん（gocochi 代表）からは、「gocochi（ごこち）」とは、ハンディのある子どもを持つ家族のグループで、将来の不安や悩みを持つお母さんたちの「居（gocochi）」のいい場所を作りたくて立ち上げた」と、親の立場からのお話がありました。自閉症、ダウン症、肢体不自由など様々な障害のある子どもの保護者の登録が50名を超えているとのことで、定例会、学習会、家族の交流会など楽しく取り組まれているというお話がありました。

鶴先生、松尾さんも笑顔でいきいきとおだやかに話をいただきました。「その子も含めて家族が幸せにならなければならない」という言葉が心に響きました。

子どもを中心に、学校の先生、各関係機関と保護者が情報を共有して、心をもって対応していくことの大切さを痛感した研修会でした。

## ＜アンケートから＞

- ・親同士の悩みの共有、また親や学校、保育園関係者にも学習会が必要ではないか
- ・障害のある子が普通に生きていく為に、意見を市に提言していくような親の会を望む。
- ・地域の方々に障害児も健常児と同じなんだとわかってほしい

### 一人一人の子どもに合った教育と、子どもを育てるために地域でできることを考える

10月29日に第20回教育分科会を開催しました。趣旨説明として、八女市教育委員会 教育部 学校教育課 参事補佐兼学務係長 白坂 正彦 氏より「就学相談・支援にかかる説明」をしていただきました。福祉職に携わる職員は就学に関する話を聞く機会がないので、八女市での現状を聞かせていただくよい機会となりました。そして、講演「特別支援学級等の担任と保護者の関わり」というテーマで上妻小学校 教頭 鶴 欣二氏にお話ししていただきました。鶴教頭は、特別支援学級、特別支援学校の経験もされており、八女市の保護者の方たちとの関わりも強く、ご自身の教育実践、保護者と一緒にやってきた取り組みについてお話をしていただきました。



【写真】鶴先生

鶴教頭の教育に対する熱い思いと、保護者の立場に立った支援の在り方をお聞きし、相談支援を行う上でも必要な視点を改めて考えさせられました。

12月18日に第21回を開催。今回は、事例検討を行いました。障がい者手帳は持っておられない不登校の子どもさんの事例です。本人にどのようなアプローチをしたらいいのか、家族支援のネットワークをどう作るか、学校以外で不登校の子どもにアプローチできそうな人や場所はないか、3グループに分かれて協議しました。学校の用務員さんに声かけしてもらってはどうか、学力を保障するためにも勉強を教えてくれる家庭教師をボランティアでやってくれる人がいたらいいな等、様々な意見が出ました。八女という地域性を活かして、障害の有無に関わらず、子どもたちが学びたい時に学べる場所、大人になっても学びたい気持ちがある人が集える場所があったらいいな・・・と考えさせられる分科会となりました。



【写真】グループワークの様子

## 相談 思いを実現するための計画を

9月22日、第2回分科会を開催しました。各事業所の相談支援専門員の方々に事前にアンケートを取り、意見交換をしました。

◎アンケートの一部

Q：利用計画を作成する際、心がけていることは？

A：サービスありきにならないように、その人の生活全般を見て、今あるサービス以外にもインフォーマルなものも含め、他に利用できるものはないか考えている。本人の思い、ニーズを一番大切にしている。

Q：サービス等利用計画について本人や家族への説明の仕方は？

A：利用計画がなかったところと比べ手間が増えたと感じられる方もおられると思うが、計画作成を通して関わることで子どもさんの成長や生活状況の変化に応じてサービスを調整していくことができること等丁寧に説明し、理解いただいている。



また、来たる1月23日(金)に開催しますサービス管理(提供)責任者連携合同研修会に向け、事前にサービス管理責任者の方々にアンケートを取らせていただきました。

『利用計画作成時、大切にしていることは？どのような視点で利用計画を立てていますか？どれだけ利用者の方を理解した計画ですか？』等々。相談支援専門員としての自分たちの役割を見つめ直し改善していくべきところも多々あり、今後に向け前向きな貴重なご意見をいただけたと思っております。

## 生活

前回以降、2回開催しました。共に、各事業所へ事前アンケートを取り、その内容を主に講話をお願いしました。今回で単発で終了できる内容でもなく、次年度にも引き継ぎながら、当事者の生活に密着した内容を、皆さんで学習して行きたいと思います。幅の広い「生活」一つひとつ、息長く続けたいと思います。

## ○「食育」について

10月27日、八女市地域包括支援センター檜室美恵子氏より講話を頂きました。

体は食べた物で出来ていること、食事は愛情を感じられる場であること、人間らしい食事になることの話が印象に残りました。その後、グループ討議を行いました。高齢化に伴い咀嚼や成人病の問題も多く、食べる楽しみと健康管理の兼ね合いが難しい声が多く聞かれました。又、通所と入所では食事内容の把握が違うことなど、各事業所なりの思いを共感しました。中には、歯科衛生士を雇用したり、言語聴覚士の指導を受けている事業所もありました。しかし、どこの事業所も食べる＝楽しみは、同じ思いでした。



【写真】檜室さんによる講義

## ○「身体介護」について

12月9日、陽だまりの里にて、理学療法士の坂本貴子氏より講話と実技を受けました。まず、PT,OT,STの違いの説明から、陽だまりの里でのリハビリの状況報告、その後アンケートで質問が多かった、下肢筋力の付け方、介助方法について、実技を交えて丁寧に指導を頂きました。例えば、椅子からの立ち上がりの介助方法は、まず正確な立ち上がりの動作を知ること。私たちが自然に行っている行動を丁寧に確認しました。そして、当事者がどこまで出来るのか確認し、出来ない所を介助することが必要。過剰な介護にならないと言われました。色んな実技も体験しており、是非事業所で取り組みたいと好評でした。

## 就労

## 大牟田恵愛園に行ってきました！ 事例検討も行いました！

11月4日大牟田恵愛園、恵愛ワークセンターへ施設見学に行きました。分科会に参加されている各事業所より計18名の参加があり、乗り合わせにて出発。

今回大牟田恵愛園（恵愛ワークセンター）の見学に至った経緯は様々な就労の作業があり、八女地区の就労支援事業所とはまた違った感じがあり「何かしら参考になることがあるのでは？」とあっての事でした。

中心部から少し離れた山の上に1983年より授産施設として開所され、現在の作業としては①クリーニング作業②タオル作業③パン製造作業④リサイクル事業等色々な作業をされています。大きな機械でクリーニング作業をされ、「就労支援事業所」と言うより「工場？」と言うような感じを受けました。就労A、Bと言う枠にとらわれず、その方その方に合う作業をされており「こういうやり方もあるんだな？」と気づいたところでした。

帰りの際は地域交流センター内のたんぼぼ（レストラン&喫茶そよかぜ）で参加者全員でランチ（昼食）をいただきました。

12月22日の分科会は、事例検討をメインに開催しました。一般就労と、福祉的就労部門に分かれて、それぞれの事例を深めました。今回の事例は、①仕事が長続きせず、最近、発達障害の診断を受けたケース、②療育手帳をお持ちの方で、訓練を重ねているが、なかなか就職に結びつかないケースの2事例です。①では、「発達障害に対する自己理解をどう促していくのか？」医療機関が関わる必要性や、生活面の課題の解決など、多方面からのアプローチが必要だという意見が出ました。②の事例では、「出来ていること」に焦点を当て、「関わり方を少し工夫するといいいのでは？」「褒める」「認める」等小さなことの積み重ねが大切なのではないかという意見が出ました。意見交換することで、新たな発見や気づきがあり、支援について振り返る機会になりました。



【写真】おいしくつです

## リーベルに集う 仲間たち ②

### 福島小より手作りの カレンダー



12月18日、福島小学校特別支援学級の元気な子どもたちより、手作りのカレンダーが今年も届けられました。福島小ではこのカレンダー作成は10年以上も続いている恒例行事となっていますが、リーベルをはじめ、市内の機関やお店など7カ所に配布をされています。

**将**来の進路を考える上で大切な職場実習。受け入れ事業所代表の高橋さんが、『色んな人につながろう』を目的に、素てきな高校生を紹介されました。

僕は、10月6日（月）から10月10日までの5日間ホームヘルプ金太郎で就職体験をしました。そこでお年寄りの介護をしました。その中で、いろいろな思い出ができました。

この体験で一番うれしかったことは、従業員やお年寄りの方々に名前を覚えてもらったことです。名前を呼ばれるのはやっぱりうれしいものです。又、日を重ねるごとにみんなが僕に笑ってくれるようになったこともうれしかったです。

仕事をしていく中で、難しいこともありました。相手がお年寄りだったので、言っていることがよくわからず、話を理解するのが大変でした。だけど、それもいい思い出になったなあと思います。なかなかお年寄りの方々とふれあう機会は少ないので、いい経験になりました。又、仕事の中でおしぼりを作るとき難しくて最初はできませんでした。でも、どんどんわかってきて、早く仕事をこなすことができるようになりました。難しいことでも一



【写真】金太郎高橋さんとツーショット

生懸命やれば、できないことがないと、終わった後に思い、やりがいを感じました。

この体験であいさつ・返事をする事、目上の人たちに対する言葉遣いなどの礼儀を学びました。態度が悪ければ、人とのコミュニケーションがとれず、仕事がつづかないと思います。又給料をもらえないかもしれません。この先就職していくうえで大切になっていくかもしれません。だから僕はそうならないように、気をつけたいです。

これから学校生活や寄宿舎生活で、礼儀やマナーやルールを守っていけたらいいなあと思います。

### 編集後記

- ・公益財団法人森村豊明会より99万円の助成金の寄贈を受けました。この助成金により軽自動車を購入し、相談援助公用車として活用しています。
- ・サンタさん今年もありがとうございます。毎年匿名の方から本年も商品券が送られてきました。さっそく掃除機を購入させていただきました。
- ・新年おめでとうございます。本年も八女地域の新しい課題が明らかになってきました。しっかりと取り組みを進めていきたいとます。(啓)

